

令和6年度 香川県歯科医師会・介護支援専門員協議会合同研修会  
(香川県介護支援専門員協議会「第4回定期研修会」)

会員  
限定

“その方らしく生きている”を亡くなる瞬間までみんなが  
感じられる生活支援を目指して～生活と医療をつなぐ歯科医療～

開催日時	令和7年2月16日(日) 9:30～12:30		
開催形式	ハイブリッド形式 [ 香川県歯科医療専門学校 7階 8020ホール / YouTube配信 ]		
講師	日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座 専任講師 遠藤 眞美 先生		
対象	香川県介護支援専門員協議会 会員		
参加費	無料	定員	50名程度 ※システム受付先着順 ※歯科医師会参加者との調整あり

(注) 定員は、会場参加の方の定員です。オンライン参加の方は、この限りではありません。

#### ■ 申込方法 ■

- ① 下記の「お申込み専用 URL」または「QRコード」からお申込みください。
- ② 入力確認後、送信ボタンを押してください。ご入力いただきましたメールアドレスに、受付完了のメールが自動配信されますので、ご確認ください。
- ③ 後日、ご入力いただきましたメールアドレスに、資料等を送信いたします。(開催日直前になっても連絡がない場合は事務局までご連絡ください。)

#### お申込み専用 URL

<https://forms.gle/jTTenbZEMZZY7rbJ9>

(アクセスできない場合は、下記までご連絡ください。)



#### 申込締切

2/7(金)17時

※お申込み多数の場合は、参加人数の調整をお願いすることがございます。

#### ■ その他留意事項等 (重要) ■

- ・録音、録画(スクリーンショット含む)は、固くお断りします。
- ・やむを得ない事情により、予告なく内容に変更が生じる場合がございます。
- ・会場が設けられている場合は、感染症対策のため“手指消毒”や“咳エチケット”をお願いします。
- ・本研修会は、香川県主任介護支援専門員更新研修の受講要件に位置付ける法定外研修です。受講証明書が必要な方は、研修会終了後に必ずアンケートのご入力・送信をお願いします。(無記名・未提出は不交付)
- ・法定外研修のため、遅刻・早退・中座にご注意ください。場合によっては、受講証明書は交付できません。
- ・お預かりしました個人情報は、本研修会の運営及び本研修会に関するご連絡に限って利用します。

お問い合わせ先 ▶ 香川県介護支援専門員協議会 事務局

TEL : 087-876-1185 (綾川町国民健康保険陶病院代表 ☎) E-mail : web@kagawa-caremanager.net

2/16（日）香川県歯科医師会・香川県介護支援専門員協議会合同研修会

「“その方らしく生きている”を亡くなる瞬間までみんなが感じられる生活支援を  
目指して ～生活と医療をつなぐ歯科医療～

日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座  
専任講師 遠藤 眞美 先生



歯科医療による口腔機能の維持・向上が全身の健康に寄与すると理解されるようになり、歯科医療者は認知症を含む要介護高齢者に対して口腔ケアなどを通して関わることがなっています。その関わりの中で、「うまく食べられない」「安全に食べさせてあげたい」など食事に関する訴えは多く、今までであれば歯がない、義歯は使用していないと歯科医療者に関わらなかった寝たきりの方々から訪問診療の依頼を受けることも少なくありません。寝たきりで経管栄養中の方に対して口腔ケアおよび摂食嚥下リハビリテーションの実施や義歯調整などの歯科治療は表情を豊かにしたり、摂食嚥下機能などを向上させて経口摂取の実現につながった経験がある方もいらっしゃると思います。しかし、食事は口腔機能だけで営まれるものではなく、食材を認知し、口に運んで食べようとする意欲などが必要であり、認知・運動・情意の3領域が関係しています。この3領域は食事に限らず日常行動の遂行にも共通して必要であり、食事を通して各領域を評価することによって気づいていなかった認知症の発見が早期にできたり、学習の過程で獲得した機能や意欲が食事という範疇を超えて食事以外の様々な適応行動を引き出すきっかけとなることもあります。例えば、お箸を使えるようになると字を書けるようになったり、「いただきます」という言葉が出るようになると周囲へ「ありがとう」などの感謝を表現できるようになったり、食事を楽しめるようになると他のリハビリテーションへの積極性が向上した方々と出会ってきました。口腔ケアを含む歯科医療は対象者の適応行動を引き出すことによって医療と生活をつなぎ、ひいては周囲の人の介護負担を軽減する可能性があると考えています。

一方で、認知症高齢者への歯科治療計画やケアプランの決定には介助者の希望が反映されやすく、認知症だから間接訓練や自食のリハビリテーションは行わないという消極的な場合もあれば、義歯さえ製作すれば咀嚼できるはずだと積極的な歯科医療介入を希望する場合もあるのが現状です。しかし、その対象者は患者本人です。実際、認知症の方の想いを知ることは難しく、患者自身と周囲の希望に乖離を認めることは多いのではないかと思います。本人の納得が得られないまま一方的に治療を進めると良好な治療効果が得られないだけでなく生活への活力も減退し、認知症症状が進行する可能性も否めません。生活に身近な歯科医療者は患者に寄り添い、対話することでその想いに気づきやすいと同時に、周囲の人たちに対して歯科医療に関する知識提供と技術支援を行いながら円滑なコミュニケーションを図るコーディネーターの立場

もとれます。特に、訪問診療といった相手のくらしの中での関わりは、両者の希望の乖離を埋める役割を担うことが出来る可能性を秘めています。患者の想いを理解し、“その方らしさ”を叶えるためには、歯科医療者は歯科医療者として、介護職はそれぞれの専門職種としての知識を習得したうえで、家族と共にご本人に興味を示し、日ごろから対話を続ける心配りが重要と考えています。

今回の講演では、臨床での経験を通して、歯科医療者として関わってきた中で要介護高齢者の皆様からいただいた笑顔をご紹介しながら皆様とお時間を共有させていただきたいと思えます。

#### 【ご略歴】

- 2005年4月 日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座 助手（専任扱い）
- 2010年3月 公立大学法人九州歯科大学 生体機能制御学講座 摂食機能リハビリテーション学分野 助教
- 2011年4月 公立大学法人九州歯科大学 生体機能学講座 老年障害者歯科学分野 助教
- 2012年4月 日本大学松戸歯学部, 障害者歯科学講座 兼任講師
- 2012年4月 公立大学法人九州歯科大学附属病院 病院講師
- 2011年4月 公立大学法人九州歯科大学 生体機能学講座 老年障害者歯科学分野 助教
- 2012年4月 公立大学法人九州歯科大学附属病院 病院講師
- 2015年4月 九州歯科大学 非常勤講師（現在）
- 2015年4月 日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座 専任講師（現在）